

富士川英郎先生を悼む

日本医史学会理事

大滝紀雄

富士川英郎（ひでお）先生（一九〇九—二〇〇三）は東大名誉教授で、ドイツ文学専攻家としてドイツ詩の紹介や翻訳、江戸期の漢詩研究などに尽力された。著書に『江戸後期の詩人たち』『菅茶山』『リルケ・人と作品』『読書好日』『読書游心』などがあり、読売文学賞、高村光太郎賞、大仏次郎賞等を受賞している。

先生は日本医史学会の実質的創始者として有名な富士川游（一八六五—一九四〇）氏の四男である関係で、医史学にはとくに造詣が深かった。私は医史学会例会の席上でしばしば先生にお会いして、貴重なお話を伺うことが出来た。医史学に関係の深い著書としては、小沢書店から出版した『富士川游』一卷のほか、先生が心血を注がれた思文閣出版『富士川游著作集』全十巻がある。後者には游氏の著作がほとんどすべて網羅され、出典と解説が各巻の末尾に記されているのは、後学のため得難い貴重な文献である。各巻の最初の凡例に示す通り、本著作集の編集にあたっては、編集顧問の先生方の御助言を得て、富士川英郎の責任において編集したと書かれている。したがって本著作集は英郎先生の炯眼と御努力の賜である。

ここで昭和十六年四月、日新書院刊行の富士川游『日本医学史』決定版（八二二ページ）の目次を参考までに掲載しておく。

「富士川游『日本医学史』目次

第一章 太古の医学

第二章 奈良朝以前の医学

第三章 奈良朝の医学

第四章 平安朝の医学

第五章 鎌倉時代の医学

第六章 室町時代の医学

第七章 安土・桃山時代の医学

第八章 江戸時代の医学 前期(初世) 中期(中世) 後期(季世)

第九章 明治時代の医学

第十章 疾病史 伝染病、心臓病、呼吸器病、消化器病、泌尿器病、神経系病、新陳代謝病、花柳病、皮膚病、爾

他疾病

以上十章から成り、日本医事年表九六ページを含み、明治三六年までが記載されている。

つぎに英郎先生『富士川游著作集』第一巻、東洋医学・医学分科史には、支那医学思想史、日本医学思想史、日本医志、日本外科史、日本眼科略史、日本小児科史、耳鼻咽喉科学史内科史等が収められている。

第二巻 医術と宗教には医術過誤のほか、名医叢談、医箴などが含まれている。

第三巻 医者の風俗、迷信には鬚髭、喫煙、海水浴、妊娠が記され、迷信に関する記事は約二〇〇ページが費やされ、きわめて丁寧に解説されている。

第四巻 疾病史、病志には脚気病の歴史、梅毒の歴史、癩病の図、病の草子、痘瘡の話、種痘術、流行病史、ペスト

病歴史が述べられている。さらに興味ある記事として新井白石、土井玄碩の頭骨、源頼朝の死、徳川家康の身体、馬琴、頼山陽の病志等が記されている。

第五巻 民間薬には、民間薬および西洋民間薬が広範囲に取り上げられている。

第六巻には前半医科論理学が、後半永富独嘯庵の『漫漶雜記』が掲載されている。

第七巻は伝記(一)で『皇国医人伝』『本朝医人伝』『日本医人譜』『西洋医家像伝』が収められている。

第八巻は伝記(二)で芸備医人伝が過半数を占めている。その他、栄西、貝原益軒、後藤良山、吉益東洞、温恭合田求、青木昆陽、前野蘭化、杉田玄白、三浦梅園、小野蘭山、菅茶山、奈須柳村、宇田川榕庵、箕作阮甫、佐藤尚中、相良知安、野村雨莊ほか西洋医科も登場する。

第十巻は医史資料、私立奨進会、先哲祭、法爾、日本医史学会創立趣意書、富士川游年譜、著作年譜等々。

なお各巻の終りに解題が示され、出典が一目瞭然に分かることは何よりも有難いことである。